

大原の里と比良の山

大原のオオムラサキを守る会
蓬 萊 む し の 会
第 28 号 2026.7.10

イソヒヨドリとの出会い

藤野 適宏

1. 最初の出会い

15 年ほど前、四国霊場 88 カ所を結ぶお遍路道を歩いて回ったことがある。約 1200 km を 3 回に分けて歩いた。歩き遍路の紹介・報告の書籍やネット記事は数多くあって、大いに参考にさせていただいた上で、それらの内容とは一味違う遍路をしようと思った。その計画のひとつが遍路道で出会う自然の写真を気の向くままに撮って、ホームページ (HP) で紹介していくというものであった (現在 HP は閉じている)。都合 49 日間の遍路旅で数えきれない動植物の写真を撮ったが、鳥の写真は多くない。手持ちのデジカメの望遠能力が低いのも理由の一つである。そのような中でイソヒヨドリは例外で、至近距離で撮影させてくれた (図 1・2)。美しい色彩の鳥の写真が撮れたことに、大いに満足した。



図 1 高知県安芸市の海岸で。対岸は安芸市街 2010. 3. 26



図 2 図 1 のイソヒヨドリの接近写真 2010. 3. 26

2. 自宅付近でイソヒヨドリと再会する

春になると自宅付近で美しい声でさえずり、心を軽やかにしてくれる鳥の存在に気付いたのはそんなに以前ではない。2022 年 4 月、自宅付近で電線に止るその鳥を撮影することができた (図 3)。図鑑で調べるまでもなく、その色彩は強く記憶に刻まれていたイソヒヨドリであった。姿が美しいだけでなく、声も美しい鳥であることを知った。その名前から海岸特有の鳥だと思っていたが、図鑑やネットから、近年内陸部の都市周辺への進出が著しいことを知った。

イソヒヨドリの美しい調べは自宅付近だけでなく、近くに買い物に出かけたときなどでも聞く機会が増えてきた。いつも鳴き声に気を配るようになってきたからだと思う。私の耳には心地よい調べではあるが、彼らは熾烈な縄張り宣言を行っているに違いないと思った。



図 3 自宅付近で撮影 2022. 4. 25

3. 美しくはないけれど、やはり目立つ鳴き声を聞く

今年6月になってからだと思うが、自宅の窓から「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と高い音が絶え間なく聞こえることに気付いた。

6月11日の朝、ゴミ出しに外に出るとやはり同様の声を聞いた。至近距離である。声の方を眺めると自宅の向かいの家のテレビアンテナに止って鳴いている鳥がいた。何かを咥えていることが肉眼でもわかった。咥えていても発声には支障がないようだ。30倍ズーム機能があるデジカメ（ソニーサイバーショット DSC-WX500）で撮った写真の一枚に、長い尾のカナヘビが鮮明に写っていた（図4）。そして鳥はまたしてもイソヒヨドリであった。

大きなカナヘビを咥えて鳴いている理由は何だろう。ヒナのためのエサならさっさと巣に持って行けばいい。そうしない理由をいくつか考えた。

- ① プレゼントするためにメスを呼んでいる。
- ② ヒナへの給餌係はメスで、手渡すために（実際は口移しだろうが）メスを呼んでいる。
- ③ ヒナはすでに巣立っていて、給餌するためにヒナを呼んでいる。

ところで、イソヒヨドリはオスとメスで大きく色彩が異なる（図5）。これまで見てきたイソヒヨドリはすべてオスであった。



図4 カナヘビを咥えたイソヒヨドリ 2026. 6. 11

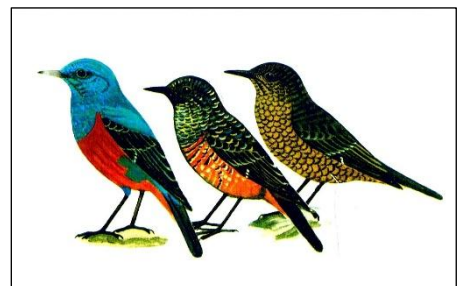


図5 左:オス、右:メス、中:若鳥オス 「フィールドガイド 日本の野鳥」(日本野鳥の会)より

4. 6月15日の観察

この日も相変わらずイソヒヨドリの鳴き声は止まることはなかった。この日は終日自宅に居て、室内の作業の合間に耳を傾け、声の方向を見極めては路上に出て、撮影を行った。止まる場所は電柱、電線、テレビアンテナ、屋根の上など、すぐに見つけられる場所である。イソヒヨドリも見通しのよい場所を選んで鳴いているようだ。

自宅の位置から見て止まる方向はさまざまだが、ほとんどが歩いて行って撮影できる距離であった。そしてそれは、ある家を中心として半径 50m 以内であることに気付いた。その家は我が家から 2 軒隣の空き家で、イソヒヨドリが隣家とその家の間に飛び込んでいく姿を見て、すぐさまその隙間が見える道路に移動した。そこで目にしたのは図6である。3つのものを咥えていることがわかる。右に見えるのはニホンヤモリに間違いのないであろう。次に見えるのはこのニホンヤモリの尾のようだ。そして一番左はゴキブリのように見える。それにしてもどうすれば



図6 ニホンヤモリなどを咥えたイソヒヨドリ 2026. 6. 15

この3つのものを一挙に咥えることができるのだろう。

図6の奥に2つの通気口が見える。後刻、その左側にイソヒヨドリが飛び込み、すぐさま出て行くのを見た。それでは図6の個体がこの通気口に飛び込んだかということ、そのような記憶はない。というよりも飛び込んでいないであろう。というのもこの日、43枚のイソヒヨドリに関わる写真を撮ったが、ニホンヤモリを咥えた個体の写真は8枚あり、最も早い撮影が13時29分であった。そして図6の撮影が13時42分、その後15時00分にも撮っていた。実に少なくとも1時間31分にわたって巣に運び込むことなく、場所を転々と変えて「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と鳴き続けていたのである。

興味深いことにはこの間、メスと共にいる写真を撮影していた(図7)。トリミングした画像ではあるが、上の個体がオスでニホンヤモリを咥えていて、先の個体と同じであろう。そして下のメスも何かを咥えているのだ。他の画像で確認したがガの幼虫らしい。これにより、メスへのプレゼントあるいは役割の分担説は疑わしくなった。鳴き声のことだが、オスは「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と鳴き続けていたが、メスは「ジ、ジ、ジ」と鳴いていたようだが、目立たず、また鳴き続けるということとはなかった。

こうなるとあの通気口を本当に巣として使用しているのか疑問になってきたし、それよりも彼らの行動に対する混迷が深まるばかりだった。



図7 雌雄 上:オス、下:メス 原図をトリミング・露出補正 2026. 6. 15

5. イソヒヨドリが咥えていたそのほかの獲物

すでにふれたように6月15日は43枚の写真を撮ったが、多くの場合同じ個体が同じ獲物を咥えているものであった。それはニホンヤモリとゴキブリと思われる昆虫のほかに数種ある。

図8は図7のメスと同一個体と思われる。イモムシ状のものを数頭咥えている。道路上で何かを処理している個体も見つけた(図9)。私の存在をあまり気にすることな



図8 イモムシ状のものを咥えたメス 原図をトリミング 2026. 6. 15



図9 路上で何かを処理中 原図をトリミング 2026. 6. 15



図10 残されたモモズメの翅 2026. 6. 15

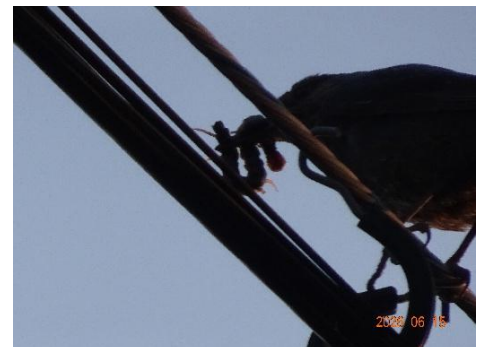


図11 オオムカデらしきものを咥えた個体 2026. 6. 15

く、平然と振舞っていた。それが飛び去った後、3枚の翅が落ちていた(図10)。前翅が2枚と後翅が1枚である。ガの成虫であろう(後日、村上豊氏にモモスズメ(スズメガ科)であると教えていただいた)。翅を処分して胴体だけを持ち去ったのだろう。図11はサイズからいってオオムカデ科の一種であろうか。カナヘビ、ニホンイモリにガの幼虫や成虫、オオムカデも加わって、かなりの悪食である。

6. その後のイソヒヨドリ

疑問解明に向けてこれからが楽しみであると思った矢先、残念なことに6月15日の2日後の6月17日以来、現在(6月26日)に至るまで、イソヒヨドリの声を聞くことも姿を見ることもなくなった。唐突な出来事だったので、私なりにその理由をいくつか考えた。

① イソヒヨドリの写真を撮るために追い回したので、巣を捨てて去った。

そんなに執拗な追跡をしたとは思えず、また人間に対する警戒心は稀薄だと思えるので考えにくい。私という特定の人間がずっと追隨していたことに嫌気がさしたのかもしれない。

② ヒナが巣立ったので、親子ともに去っていった。

最も自然な成り行きで、こうあってほしいと思うが、あまりにも唐突で考えにくい。ヒナは巣立った後、自力で飛び回り採餌できるようになるまで、親が近くで給餌するのが通常のので、疑問が残る。あるいは①の理由と合わさった結果なのかもしれない。

③ 何ものかに巣を襲われて、去っていった。

襲撃者として最も考えられるのはカラスである。イソヒヨドリは他の野鳥に対してかなり強気だというのが、身体の高いカラスには対抗できないであろう。

7. 最後に

イソヒヨドリが姿を消した理由はすべて推測にしかすぎず、それにイソヒヨドリについて知らないことが多すぎる。日常の生活の中で、観察力を研ぎ澄まして観察事例を蓄積していきたい。それにしても、わずかな日々であったが、イソヒヨドリがワクワクした時間を過ごさせてくれたのは事実である。

この記事を書くにあたって、ウィキペディアをはじめいくつかのネット記事を閲覧し、「フィールドガイド・日本の野鳥」(日本野鳥の会)を大いに参考にした。

8. 追記

一旦書き終えたのち、ネット上で興味深い記事を見つけた。イソヒヨドリはヒナが巣立った後、雌雄の親鳥はヒナを分担して受け持ち、それぞれが独立して子育てをするというのだ。本当にこのような子育てをするなら、雌雄がエサを咥えて並んで止り鳴いていたのは、それぞれが担当のヒナを呼んでいたという解釈が成り立つ。しかしヒナがやってきた現場は見えていない。次に観察できる機会を待ちたい。

多羅尾のこと

藤野 適宏

1. 三国越林道

アサギマダラは旅するチョウである。春の北上移動期は見る機会が少ないこともあって比較的话题にならないが、秋の南下移動期はその移動中の立ち寄り場所が、移動調査の標識ポイントとしてよく紹介されていた。今でこそフジバカマを植えてアサギマダラを呼ぶことが盛んだが、それ以前は、私はときどき、国土地理院 2.5 万分の一地形図を広げて、アサギマダラの気持ちになって飛来場所を推測したものであった。

そのように推測したうえで現地へ車で出かけるのだが、十中八・九、外れであった。ということは数少ないが当りのこともあるわけで、その数少ない飛来場所に三国越（みくにごえ）林道があった。この林道の大部分は三重県伊賀市島ヶ原にあるが、京都府と滋賀県に隣接していることが林道名の所以である。実際私は三国越林道に行くには、図 1 の滋賀県甲賀市信楽町にある多羅尾①を通過して京都府南山城村北大河原に出る。ここが三国越林道の起点である。



図 1 三国越林道・多羅尾周辺

最初に三国越林道へ行った 2007 年 10 月の頃は林道の斜面にヒヨドリバナやアザミが咲き、多くのアサギマダラに出会うことができ、その景観のよさと相まって夢見心地であった（図 2）。この推測が正しかったことに気をよくして、このような地形と植生は三国越林道付近の他の場所でも見出せるはずだと考え、あちらこちらと車を走らせた。ここで紹介する多羅尾も、その過程で知った集落である。なお、アサギマダラを求めて近隣を走り回った試みは、三国越林道を除いてすべて空振りに終わったことを付け加える。



図 2 三国越林道のヒヨドリバナとアサギマダラ 2008. 10. 12

2. 多羅尾の歴史

滋賀県甲賀市信楽町多羅尾は信楽町の最南端の山あいの集落である。峠を越えればそこはも

う三重県伊賀市島ヶ原である。その特異な字面や響きが心に強く残った(図3)。その昔、信楽に藤原氏の荘園があり、土豪多羅尾氏はその藤原氏の流れをくむ一族であるというが、信用できるものではないようだ。多羅尾氏が一躍歴史の舞台に登場したのは本能寺の変によってである。織田信長に京に招かれて接待を受け、その後堺界限でのんびりしていた徳川家康が異変を聞いて、主従数騎で間道を抜けて三河に逃げ延びる折、伊賀から伊勢の国まで送り届けたのが多羅尾光俊親子である。



図3 信楽高原バス多羅尾停留所。今もあるのだろうか 2009.10.23

豊臣秀吉の代になったが光俊親子には挫折が待っていた。長浜城に入った豊臣秀次と姻戚関係を結んでいたことが災いして、秀次追放・切腹後、秀吉は多羅尾一族をことごとく改易、光俊は蟄居を命じられた。

秀吉死去後、家康は伊賀越えの恩を忘れておらず、光俊を旗本に取り立て、光俊の孫光好の代になって信楽の代官とした。幕府の多羅尾氏に対する信頼は永続して、幕末まで信楽代官職に留まっていたばかりでなく、諸方の代官を兼任して、十万石余を治めていたこともあったという。

3. 御斉峠

車で御斉峠(図1参照)へ行ってみた。多羅尾から伊賀へ抜ける県道である。めっぼう車の往来が少ない道であるが、峠付近に温泉付のカントリークラブができていて、改修され道幅も広くなりつつあった。家康が落ち延びたのもこの峠らしい。峠には案内板があり、昔貴人を食事でもてなした場所で、食事の饗応を斉(とき)と言い、峠名はそれに因んでいるとある(図4)。「おとき峠」と読むようだ。



図4 御斉峠案内板 2009.10.23

俳句の石碑もあった。「切通し多羅尾寒風押し通る 誓子」と読めた(図5)。御斉峠は南北の峠で、誓子は南の伊賀側から上ってきたのだろう。峠に差し掛かった途端、図1の多羅尾②から吹き抜ける圧倒的な北風に見舞われて、前進もおぼつかない事態に陥った困惑が読み取れた。



図5 山口誓子の句碑 2009.10.23

少し多羅尾側に下った鞍部に高札風の案内板があった。「仕置場(処刑場)」(図6)との見出しに何か不意をつかれ、不安な気持ちになって周囲を見渡してしまった。信楽代官所の処刑場だったとある。毎年12



図6 仕置場案内板 2009.10.23

月に罪人が裸馬に乗せられて、ここまでつれてこられて斬首されたという。長期間死を待つ心境や寒風が吹きすさぶ中、薄ごろも一枚で裸馬に乗せられての行程など罪人の心を手繰っていると、誓子の俳句と相まって私の心の片隅を寒風が突き抜けていった。

(2009年10月26日に書き記したものを一部改訂)

ダブルハートのアサギマダラ

藤野 適宏

何年か前、動物の表皮に現れたハート模様を見つけてはネットに投稿されて、それが話題になったことがある。それを見つけると幸運が訪れるという。京都市動物園のミライというキリンの縞模様の中にもハート模様があるということで、観客増員の手助けになっているらしい。それだけでは済まず人為的にハート模様を作り出して、人を呼ぶ工夫がされている場合もある。宇治田原町の正寿院の窓がハート模様で有名だ。

私も幸運に恵まれないせいかハート模様が気になる方である。野外で昆虫に接しているときとして見つけられることがあり、やはりうれしくなる。最もよく見るのは、エサキモンキツノカメムシの体表だ（図 1）。これはオオムラサキの越冬幼虫を探しているときなどに会う。そんなに珍しい出会いではないが、見つけるとやはりうれしくなって、近くに人がいれば知らせて喜びのおすそ分けをする。



図 1 エサキモンキツノカメムシ
「大原と比良の里 11 号」(2025) より

次によく目にするのはアサギマダラの移動調査時だ。アサギマダラは名前の通り翅にたくさんのまだら模様がある。その模様のひとつがハート模様になっていたりする。ハート模様が出現するのはおもに裏面後翅である。毎年何百というアサギマダラを捕獲し、裏面後翅に標識（マーキング）をするので、ハート模様に出会うのは稀ではない。見つけた場合は写真に撮ったりするが、どこかいびつなハート模様の場合がほとんどで、見るからに幸運が訪れると思える模様にはなかなか出会えない。

ところが先日、2 つもハート模様があるアサギマダラを写真に撮っていたことを、別の目的で過去の写真を漁っていた時に偶然見つけた（図 2）。丁寧に「ダブルハートのアサギマダラ」というキャプションが付けられていた。2008 年 9 月 14 日の撮影である。裏面左後翅に“9/13 羽化”の標識があるので、飼育していたアサギマダラがこの日に羽化したのだろう。確かに後翅に 2 つのハート模様がある。どちらも左右の対称性はまずまずだが、中央に分断線が入っているようで私の眼鏡にかなわず、記憶から消滅してしまったのかもしれない。

しかしこの写真をよく見ると前翅にもあるではないか！こちらの方が大きくて完成度が高いようだが、残念ながらそれを意識して撮影していないので、正面から撮れていない。まあしかし、3 つのハート模様がある「トリプルハート」のアサギマダラということだ。だが待てよ、見えているのは左翅だけである。右翅にもあったはずなので、ハート模様は 6 つであろう。「セクスタプル（sextuple）ハート」のアサギマダラの発見だ。



図 2 セクスタプルハートのアサギマダラ
緑丸：後翅のハート模様
赤丸：前翅のハート模様

大原 いのちの季(とき) 文月 ネムノキ

緑の木々の間に赤い花をたくさんつけた木が見えます。ネムノキです。

ネムノキは青森県津軽地方から南の本州、四国、九州、南西諸島に分布するマメ科の落葉樹です。日本以外にもイラン、アフガニスタン、中国南部、朝鮮半島に分布しています。

葉には 20～40 片ほどの小葉があり夜になると閉じてしまいます(下の写真)。また朝が来ると開きます。この葉の様子からネムノキの名前がつけられました。でも、オジギソウのように触っても閉じません。

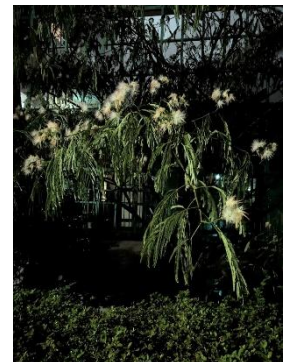
花は 6～7 月ごろに咲きます。20 個ほどの花が集まった淡紅色の花です。でも、本当の花は緑色をしていて小さく目立ちません。淡紅色をしているのは花から長く糸状にのびたおしべなのです。近づくと桃のような良い香りがします。

実は豆のさやのような形をしています。その中に 10 個ほどの種が入っています。

ネムノキは美智子上皇妃が「ねむの木の子守歌」という歌を作詞されたことでも有名です。

なお以前に日立のコマーシャルで有名になった「この木なんの木」はモンキーポッドと呼ばれるアメリカネムノキで、ネムノキに近いなかまの木です。

(文 小松清弘 写真 的場亮一)



<6 月おもな活動の報告>

◆ 6 月 3 日(水) 13:30～ (報告者: 奥谷)

○参加者 小松、藤野、塩尻、的場、大友、奥谷、計 6 名

○活動内容

- ・会議 ①本日の活動内容 ②セブンイレブン助成金報書受領終了の連絡あり
- ③放蝶会—実施計画、役割分担の訂正版
ポスターの写真; 学校に選択してもらう、記念品のサンプル
- ④蛍の調査について(多様性センターと協同)
- ・作業 ①幼虫と蛹の管理
網室外のエノキに掛けた袋内の蛹を第 2 網室に移動してロープに固定
袋についた蛹は袋のまま第 1 網室内のロープに固定、蛹 45 頭・前蛹 4 頭
- ②フジバカマ園内の除草

◆6 月 5 日(金) 10:40～11:35 (報告者: 小松)

○参加者 小松、的場 計 2 名

○活動内容：大原ルートセンサス

◆ 6月10日（水）10：00～、13：30～、14：00～ （報告者：奥谷）

○参加者 小松、藤野、塩尻、木村、的場、大友、村上、奥谷、計8名

○活動内容

（午前）網室、ドングリ園、学校

- ・会議 ①本日の活動内容
②セブンイレブン助成金 26 年度予算入金済ー予算執行可
セブンイレブンより連絡ー「環境市民活動助成フォーラム」の案内
③蛍調査ー6月5日（金）小松参加、
 - ・作業 ①幼虫と蛹の管理
網室外のエノキに掛けた大袋内の蛹を第2網室に移動してロープに固定
②ドングリ園の木の樹皮に傷つけ
 - ・打合せ 放蝶会について；学校、里トラ、行政との打ち合わせー小松、奥谷参加
- （午後）網室、文化センター
- ・作業 幼虫と蛹の管理
 - ・会議 里トラ総会ー小松、奥谷参加

◆6月12日（金）10:15～13:45 （報告者：大友）

○参加者 大友、小松、的場、村上 計 4名

○活動内容：びわ湖バレイルートセンサス

◆ 6月17日（水）10：00～、13：30～ （報告者：奥谷）

○参加者 小松、藤野、塩尻、木村、的場、大友、奥谷、計7名

○活動内容

（午前）網室

- ・会議 ①本日の活動内容 ②蛍調査実施報告（6月12日（金）実施、4名参加）
③セブンイレブン助成シンポジウム（7月31日）ー参加予定者：小松、奥谷
④里トラ総会の報告ーオオムラサキの会への今年度予算配分について
⑤生物多様性センターシンポジウム：小松参加
⑥放蝶会の役割分担（改訂版）
⑦フジバカマ苗を鉢に移植する際に必要な容器について
⑧放蝶会参加希望者（校外）ー学校教頭先生に連絡
⑨オオムラサキの会の活動見学希望者ー受け入れる
- ・作業 ①幼虫、蛹、成虫の管理ー蛹を第2網室へ移動、成虫に給餌
②フジバカマ園内外の除草

（午後）文化センター

- ・会議 ①2026 年夏季事業についての打ち合わせ（別紙資料参照）
②『科学遊びと昆虫標本づくり』のご案内（別紙資料参照）
③2026 年度セブンイレブン助成物品購入状況（別紙資料参照）
④ワークショップ昆虫標本づくり（別紙資料参照）
⑤ワークショップマニュアル（別紙資料参照）
⑥放蝶会記念品ーベニシジミの標本

◆6月19日（金）10：00～11:30

○参加者 奥谷、木村、的場、小松、藤野 計 5名

○活動内容：明日のオオムラサキ観察会・放蝶会の準備（オオムラサキ♂50頭を学校に預ける）

◆6月20日（土）9：30～11:00

○参加者 小松、藤野、塩尻、木村、的場、大友、奥谷、上田、計8名

○活動内容：第 19 回オオムラサキ観察会・放蝶会（雨のために、校庭で放蝶会のみ実施）

◆6 月 24 日（水）10：00～、13：30～ （報告者：奥谷）

○参加者 小松、藤野、塩尻、木村、的場、大友、奥谷、計 7 名

○活動内容

（午前） 網室

- ・会議 ①本日の活動内容
②セブンイレブン助成金報告書送られてきた。フォーラム参加申し込み済
③羽化数の記録用紙を設置したので記入すること
④やましろ里の会から観察会の案内
⑤ワークショップと昆虫標本づくりの案内を学校に、ホームページにも載せる
⑥特別展のポスター、チラシ、案内ハガキー印刷し、配布する
⑦予算の支払いー領収書と交換して支払うので、事前にメール等で連絡を
- ・作業 ①ルートセンサス ②成虫の管理ー第 2 網室内の成虫を第 1 網室に移動、給餌
③フジバカマ苗を鉢に移植

（午後） 文化センター

- ・会議 ①セブンイレブン報告書、里トラ予算書の回覧
②ワークショップ-次回から各自の分担のマニュアルを検討する
7 月 15 日に講習会、デモンストレーション
③特別展展示原稿ー分担、日程等の確認
④特別展のチラシ・案内ハガキー業者に各 200 枚印刷発注する

【あとがき】

6 月 20 日に行われた第 19 回オオムラサキ観察会・放蝶会はあいにくの雨となり、観察会を中止して、大原学院校庭で放蝶だけを行いました。雨の中を今年も多くの子どもたちが参加してくれて、48 頭のオスのオオムラサキが大空へ飛び立ちました。空模様の関係で飛び立ちを躊躇した個体もいましたが、大原の豊かな自然の中を舞い、メスと巡りあってくれることを願っています。これまで放蝶会実施に至るまで、いろいろと協力しながら準備を進めていただいた学校、保護者、地域、京都市の皆さまに厚くお礼申し上げます。現在飼育網室でも、残ったオオムラサキたちが元気に飛び交い、交尾・産卵が確認できるまでになっています。（藤野）

= 目 次 =

イソヒヨドリとの出会い	1
多羅尾のこと	5
ダブルハートのアサギマダラ	7
大原 いのちの季（とき） 文月 ネムノキ	8
6 月おもな活動の報告	8
あとがき、目次	10

発行 大原のオオムラサキを守る会・蓬莱むしの会 2026 年 7 月 10 日 第 28 号

H P 大原のオオムラサキを守る会 <https://ohara-omurasaki.com/>

大原のオオムラサキを守る会代表 〒606-0044 京都市左京区上高野仲町 54 小松清弘

蓬莱むしの会代表 〒520-0105 大津市下坂本 1-40-16 大友正生

編集 〒611-0011 宇治市五ヶ庄西川原 21-151 藤野適宏